新報

脚氣の研究に新紀元を劃すか

脚氣病調査會最後の報告

問題の中心はヴイタミンB缺乏說

今後も私立團體として研究を續行

明治四十年陸軍省は三十六七年の日露戰爭當時の脚氣病患者の續出に鑑み、脚氣病と兵士との關係に就て調査をも行ひ、延ひては我が國特有の脚氣病の病原を究めんとて、臨時脚氣病調査會を設けた。爾來今日まで十有八、毎年一回學界の重鎭をしてこれに關する貴重なる研究報告を發表せしめ、我が國學界の注目を屢めつゝあつたが、昨年遂に行政整理の爲め廢止するの餘儀なきに至た。然れども研究は漸く佳境に入り、各學者は昨年來熱心に研究を續け居ることとて、これの最後の報告を行はなければならぬので、去る三日陸軍省第一會議室に於ては、卽ち元脚氣病調査會の委員を集め、興味ある報告を行ふた。今回の報告を以て、長き歷史を有する同會も、完全に廢止せらるゝに至つた。行政整理の爲とは云ひ乍ら一抹哀愁の感を催すではないか。

八時半の開會が折柄の梅雨で荒木京大總長以下入澤達吉、北島多一、佐藤恒丸、林春雄、島薗順次郎、三田定則、加藤豊治郎、藤浪鑑、志賀潔、稻田龍吉、照內豊、長與又郎、須藤憲三、吳健、緒方友三郎、加藤元一、

其他に尙慶大教授大森憲太博士以下各研究當事者二十餘名が傍聽席に席を占めて居つた。

やがて一同が着席すると、陸軍省醫務局長山田弘倫氏は一場の簡單なる挨拶を述べ、多年脚氣病調査に有益なる研究を行ふて居つた本會も、愈々今日を以て解散せざるべからざるの次第並に今日各委員より報告せらるべきものは、昨年の協議に基き島薗博士の選定せられた、ヴイタミンB缺乏の程度少き食餌に依る實驗の報告であること等述べて左の如き演題順序に從ひ、次の如くで、

演題

一、脚氣母乳の水素「イオン」濃度並に水素「イオン」結合反應に就て（松本武一郎氏實驗）　須藤委員

一、朝鮮人食料及嗜好品中「ヴイタミン」B調査　志賀委員

一、乳兒脚氣に對する「ヴイタミン」B劑の影響並に鳩「ヴイタミン」B缺乏症知見補遺（機部正雄氏研究）

一、白米病病理追加（末梢神經終末の變化）（中本完二氏研究）　藤浪委員

一、「ビタミン」B比較的缺乏食餌による鳥類「ビタミン」B缺乏症に於ける肝臟「ビタミン」B含有量に就て（第二報告村田保常氏研究）

一、哺乳動物「ビタミン」B缺乏症の造血臟器の變化に就て（和氣巖氏研究）

一、「ビタミン」缺乏食餌飼養に因する鳥類血液脂肪含有量の變化に就て（福田保氏研究）

一、「ビタミン」B缺乏食餌飼養に因する鳥類各臟器水素「イオン」濃度の變化に就て（猪口貞治氏研究）

一、「ビタミン」B比較的缺乏食餌によりて惹起せらるゝ疾患は「ビタミン」比較的缺乏症 sog. Hypovitaminose）にあらず　緒方委員

一、猿の「ヴイタミン」B缺乏食試驗（菊池泰助氏實驗）

一、「ヴイタミン」缺乏食飼養母犬の子犬に起る病的症狀に就て（菊池泰助氏實驗）　林委員

一、前回の人體「ヴイタミン」B缺乏食試驗成績　佐藤委員

一、「ヴイタミン」B比較的缺乏症に依る人體試驗成績　吳委員

一、本年度の「ヴイタミン」B缺乏食試驗　稻田委員

一、「ヴイタミン」B缺乏食餌實驗に就て　入澤委員

一、「ヴイタミン」B缺乏症に關する人體實驗（續報）（加藤豊治郎、西山啓吉、一見赴夫、大平易四氏研究）　加藤臨時委員

一、人「ヴイタミン」缺乏症に就ての實驗（戸出軍兵氏研究）

一、脚氣患者に「ヴイタミン」B缺乏食を與へたる實驗（香川昇三氏研究）

一、「ヴイタミン」B缺乏症及脚氣患者「ヴイタミン」B缺乏食攝取時に於ける基礎代謝（柳金太郎氏研究）

一、「ヴイタミン」B缺乏症と脚氣の比較　島薗臨時委員

勞頭先づ須藤委員より『脚氣母乳の水素「イオン」濃度並に水素「イオン」結合反應に就て』を、松本武一郎氏實驗に基き簡單に、要領だけを十五分に亘つて報告した。水素「イオン」に關しては數年來同會に、慶大の加藤元一博士が詳細な研究を發表しては居つたが、須藤氏は今回新らたに追試的に脚氣母乳の水素「イオン」濃度と、これの結合反應とを試みたのであつた。

續いて、志賀博士の報告に移り、志賀博士は、朝鮮人の常食漬物「ヤミチ」と「ヴイタミン」Bとの關係を調査したことを述べて參考に供し十分間で打切り、續いて藤浪委員は磯部、中本兩氏の實驗を報告し、要するに「ヴイタミン」Bの缺乏食餌を與へて一定の症狀を呈するに至るまでには長時日を要したと述べ、從つてこの長日の間には、「ヴイタミン」Bのみの缺乏と稱し得ない、他の物質も共に與つて此の種の症狀を呈したと推定し得られないものでもあるまいと思はれるので、これは尙、今後の愼重な研究に待たなければならぬ尙今回の如く、比較的「ヴイタミン」B缺乏の尠き食餌を與へる時は從來とは、其潛伏期が異る事實の看取されるものであること等を、約二十分に亘り明快に報告した。

次いで緒方委員は村田、和氣、福田、猪口氏等の實驗を述べ、最近に「ヴイタミン」Bの缺乏症は、直ちに脚氣病なりと謂ふ樣な觀察を下して居るが、これは大なる間違ひである。一定の必要量の「ヴイタミン」Bを缺乏するに依つて起る症狀と脚氣の原因とは別種に研究せらるべきもの、尠くともその間に或る病理學的變化のあるべきことを豫想しこれを仔細に研究すべきではならうか、尙また私の親察する所では、絕對的「ビタミン」B缺乏食餌を與へて起る疾患は急性的で、これに反し、比較的缺乏食餌を與へて起る疾患は、慢性的に來るもので、從つてこの兩者を同一疾患と斷定を下すことは出來ない筈であると、堂々の論陣を張り、約一時間半に亘りて述べた。

更に林委員は、菊地氏の猿の缺乏食試驗並に缺乏食餌養母犬の、子犬に起る病的症狀に就ての動物實驗を報告し、大體に於て「ヴイタミン」B缺乏症と稱し得らるる症狀を呈したことを述べた。これに續いて佐藤委員も亦、人體の試驗成績を圖示して「ヴイタミン」B缺乏食餌に依つて、普通我々臨床家の見る脚氣病の症狀と、殆んど區別し得ざる同一の症狀を呈したことを報告した。斯くして午前中の報告は終ることとして、座長荒木博士は、

「時間が大分まだあります樣ですから、討論に入りたいと思ひますから宜敷いか」

と諮り、順次各委員報告に就て討論追加を行ふ。先づ第一に須藤氏の報告に就ては、加藤元一氏が須藤氏に、

「はつきりした數字は忘れたが、さつきの須藤委員の報告中のオツルンハイム

（第三十六頁へ續く）

（第三十三頁より續く）

の水素イオン濃度平均方法は、少し間違ひがあると思ふ、須藤氏のやられた方法では、大へんな誤りが出來るのである」。

之に對し須藤氏

「多少結果に差異を生ずるであらうが問題にするに足らぬ差異だから關はない。それが爲にあの報告が、信ぜられぬと謂ふ樣なことはない」。

次の討論に移り、志賀委員の報告には討論追加がなく、藤浪委員の報告に就て、緒方委員

「ヴィタミン」B比較的缺乏食を與へて起る缺乏症は、非常に長くの時日を要して居るが、それは何故かと云ふことを承りたい」。

これに對しては、實驗者の磯部氏が答へたが、質問の意味が解らなかつたと見えて、緒方委員には滿足ではないらしかつた。

脚氣の症狀と診斷上異らざるを認むるに至つたと述ぶ。次いで稲田委員も亦大體に於て同樣な結果を報告した。

次の入澤委員の報告は、坂本氏代つて述べ、これ亦ほゞ前三氏同樣な結果に就て、詳細な圖を以て示し、約三十分に亘る。

加藤委員の實驗報告に移つては

これも大體に於て缺乏食餌を與ふれば、脚氣症狀を呈することを述べ、最後に島薗委員の報告があつた。即ち結論として發病狀態は、人と場所に依つて多少異つて定型的ではないと謂ふべきであるが、ヴィタミンBの缺乏に依つて脚氣の症狀を呈し得るものであることが判つた。而してこれを臨床上脚氣と診斷を下しても、大體に於て誤りないものであると謂ふことが出來る

林、佐藤委員の報告には討論追加がなく、これにて休憩に入り午後の再開は一時からとし、各自晝餐、晝餐を取る前に入澤委員は希望として、

「脚氣病調査會は遺憾乍らこれで廢止されるのである。併し我々はこの研究を更に續くる爲に、私的團體としての調査研究を續けて行きたいと思ふが御賛成を願ひたい」。

と諮る。志賀博士からもこの趣旨の提議があつたので、それと一緒に閉會後協議することゝなつた。

午後一時再開、勞頭直ちに順序に依り吳委員の報告がある。

但し、ヴィタミンB缺乏症を起さしめる上に於て、蛋白脂肪の實驗を十分行るべきことは必要である。即ち短時間の症狀に於ては、蛋白の缺如がヴィタミンB缺乏症と同一原因に混同され易いからである。然し長時間の實驗に於ては、大した影響は認められない。今回の食餌はヴィタミンA、並にC或は鹽類の缺乏はないものであつたと思はれるから、ヴィタミンBの缺乏に依つて起る症狀と見て宜敷しいのであると述べた。斯くて講演は全部終り、次いで午後の分の討論追加になり、吳、稲田に對する討論はなく、入澤（坂本）委員の報告に就て質問すべく、緒方委員

「どうも私はヴィタミンB缺乏に依つて脚氣症狀を呈すると診斷を下すことは諒解出來ない」。

島薗委員代つて、

「今日の食餌は實驗上ヴィタミンBのみの缺乏である。併し發育過程にある者に對してはこれのみを與へたからとて、ヴィタミンB缺乏症と認めるのは不安であるけれども、發育したものに對しては、この實驗で誤りがない結果を得られる、故に臨床家としてはこれで充分正確な診斷を下し得らるゝことゝ思ふ。」

次に加藤委員の報告に就ては發議なく、最後に島薗委員の討論追加に入り、これに就ては緒方委員より前回と同樣の質問あり、更に長與委員より、

「我々病理學者として見る時は、段々先き程から述べられた樣な症狀を以てして、これを脚氣なりと診斷することは、どの程度まで確かなものであるかを疑はずには居られない。斯う云ふ證りは解剖上屢々我々は遭遇する處である、故に今少し斯く斷定する前に突き込んだ研究を積まるべきであらうと思はれる」。

吳委員

「私は脚氣とアビタミノーゼとは同一のものだとは未だ考へては居らぬけれども、尠くとも其だその關係は接近して居るものだとは認めたい。それからこの研究をもつと練る上に私はヴィタミンBを多量に與へることも面白いことだと思ふ」。

島薗委員

「長與君の御話しに依ると、臨床家に脚氣の診斷は容易でなからうと云ふ樣にも思はれるのであるが、私ははつきりつくと思ふ」。

稲田委員

「長與君の話しは我々の非常な參考になると思ふ。クリニケルは全體に於て眞面目に今日まで脚氣を研究しては居らなかつた。今後はもつと仔細に研究する必要がある。既往症なども聞かずに我々は脚氣の診斷を下して居つた。ヴィタミンB缺乏症と脚氣とは次第に接近して、島薗君などは既にさうであり、私もまたさうである。ただ今後は今一歩進んで種々な態度で研究して見たいと思ふ。脚氣を單純に見て居つたのは、我々の全く罪である」。

の如きで、島薗委員の報告に對する討論追加は終つた。最後に大森憲太博士は、

「我々は大正十一年から人體實驗を行ふて詳細な研究を發表した。脚氣の原因は飽迄ヴィタミンBの缺乏であると確信して居るのであるが、入澤、島薗博士の如きは、缺乏をその原因と認めぬが如き態度であつた。ともかく我々は、脚氣の原因は飽迄ヴィタミンB缺乏で、其他の條件を誘因と見做して居る。Bの缺乏がなければ、脚氣は起り得ぬと云ふ考へで今日まで進んで居る」。

島薗委員

「今大森君が私に就て謂つたのは大正八年頃のことであつた、Bの缺乏症と脚氣とは今日ではほゞ同樣なものであると思ふ樣になつた。しかしまだ疑ひが滿更ないわけではない。しかし私はこの疑ひで、更に研究を進めやうと思ふ」。

これで全部の日程を終つた。

尙各委員に對し、山田醫務局長より閉會の辭を述べ、今後の同會に就て志賀委員の提案に基き協議する處があり、午後五時閉會、直ちに陸軍大臣官邸に一同招待せられた。

◉關西震災地への救護班

但馬地方の大震災に各方面より救援隊が特派され又篤志者の集團が救護班を組織し、急行したが殊に注目を惹くは大阪醫大より中田篤郎教授が日本生命濟生會の幹事なる關係上同校の救護班を組織し、同地に赴ける事と京大より戸田正三博士が救護班を組織し、豊岡に出張せる事にて兩隊とも專ら負傷者の應急手當に努力した。因に豊岡町の醫界は豊岡縣立病院を始め、岡本醫院、舟木病院は難を免れた城崎町は全醫師遭難太田垣病院長の如きは愛兒を失つた。

なほ、目下は引續き姫路赤十字、神戸縣立病院、福知山、鳥取兩衞戍病院の救護班居殘りて救護に從事中である。無論同地城崎郡醫師會は救護本部となり活動中である。